

## ■■第 4 回ワークショップ・ふりかえりシートの質問・意見と回答■■

## ■検討の進め方・ワークショップ全体について

- 全体的に評価軸(案)の文言が漠然としていて意味が分かりづらいため、具体的にしたほうがよいのではないかと。
- 「課題解決の狙い」は、「評価軸(案)」が元になっているが、「評価軸(案)」が全体的に曖昧な文言であることから、「評価軸(案)」をまずは見直してほしい。

## 【回答】

- 大江山地域実行計画は、どの施設に何の機能を持たせるのか、どの施設を集約するのかなど個別の具体的な整備方法ではなく、施設の今後の在り方を示すものです。

評価軸についても、個別具体的な整備方法ではなく、施設の今後の在り方を示すものです。施設整備の方向性がわかるように表現しています。

例えば、「多目的トイレや手すりなどの設置」については「バリアフリー」としています。

具体的な改修や建て替えの内容や設備については、大江山地域実行計画を策定後に基本構想を立てる段階で検討していきます。

- 農改センターの施設運営コストは約1千万円のうち、約5百万円が水道光熱費や建物管理費、残りの約5百万円が人件費だと新潟市から聞いたが、下げられるのか。例えば光熱費の節約が活動の縮小になってしまわないか。具体的に何のコストが削減されるべきかを入れてほしい。

## 【回答】

- 今回のWSは、農改センター単独の施設として検討しているのではなく、大江山地域全体の施設として検討していただいております。ご提示しています案A~Cは、農改センター以外の施設が集約や廃止となっているので、施設運営コストや建物の維持更新にかかるコストの削減が見込まれます。

- 備蓄倉庫は中学校にはない。中学校に置けないから農改センターの2階に置いてあるが、消防団員も知らない。災害になった場合に誰がどこに運ぶかは決まっておらず、指示もない。農改センターに備蓄倉庫があっても意味がない。
- 中学校に備蓄倉庫を置くスペースを作るべきだ。
- 指定避難所は3か所ある。大江山中学校、丸山小学校、大淵小学校の指定避難所が備蓄倉庫を引き継ぐべきだ。

## 【回答】

- 新潟市地域防災計画では、大江山農村環境改善センターを備蓄拠点に指定しており、食料等の確保に努めるとともに、災害発生後すぐに必要となる物資については、避難所への分散備蓄を行うこととしています。大江山中学校でも、現在、備蓄を行うことで調整中です。運送や配布は区の職員が、自主防災組織、自治会・町内会、ボランティア等の協力を得ながら行います。今後も、避難所の施設管理者と協力しながら、適正な備蓄に努めていきます。

- WSを重ねてきたが、何をもって「拠点」というかについては、議論が足りない。

## 【回答】

- WSの「拠点」については、地域住民による交流及びまちづくり活動の中心としての施設を意味しています。大江山地域については、大江山農村環境改善センターを「拠点」に位置付けています。

- 計画策定後に、具体的に各部屋等の使い方や規模について討議することであるが、ある程度、各部屋等の使い方や規模、使用にあたってのソフト面についてイメージして、今回の討議する必要があるのではないか。今回の討議では、案A～Cの最終的イメージをすることができなかった。

【回答】

- 大江山地域実行計画は、どの施設に何の機能を持たせるのか、どの施設を集約するのかなど個別の具体的な整備方法ではなく、施設の今後の在り方を示すものです。  
具体的な改修や建て替えの内容や設備については、大江山地域実行計画を策定後に基本構想を立てる段階でご意見をお聴きする予定ですが、検討の参考としていただくために、9月27日に希望者を対象に、新築の曾野木コミュニティセンターと大規模改修で整備した葛塚コミュニティセンターの視察を行いました。